

除染後の住宅周辺について ガンマカメラによる測定開始

村は12月5日から、除染を終えた住宅周辺の放射線量などをデータ化するため、放射線を可視化できるガンマカメラによる本格的な測定を始めました。

ガンマカメラは、放射性物質が放射するガンマ線の線量を測定した結果と、カメラで撮影した映像を重ね合わせ、放射線量の高低を色分けして表示することで、目視で線量を確認できるようにした測定装置です。ガンマ線を目に見えるよう表示する



▲村職員が除染効果をチェック

ことで、除染作業後に「とり残し」がないかを知ることができ

ます。ガンマカメラによる測定・撮影は、(株)菊池製作所が受託。ガンマカメラ4台を使い、すでに除染を終えた二枚橋・須萱地区、白石地区の179世帯について平成26年3月末までに測定を終える予定です。

今回使用されているガンマカメラは、鉛の遮へい体に穴をあけてそこを通ってくるガンマ線の像を縦横に分割されたセンサーで測定するという方式です。つまり「ピンホールカメラ」のようなもの、鉛の遮へい体のため非常に重く、測定は、数人一组になり1軒当たり約1時間をかけて行われます。放射線は、例えると、線香花火のように、不定期にいろいろな角度で放射



▲※1測定範囲内、最も高い高線量部分が色付きます。この画面上で、一番高い値は、高さ1cmで毎時約0.57マイクロシーベルト

されているため、2000カウントまで測定することで、精度を高めています。画面上に濃く表示されている箇所(※1)は、その方向からガンマ線が多くカウントされたことを表しています。測定の設定で、測定範囲(パソコンに写っている範囲)の中で一番高い値の放射線量(表面線量率)を求めると、指定数値以上の値のみ色分け表示する方法があります。



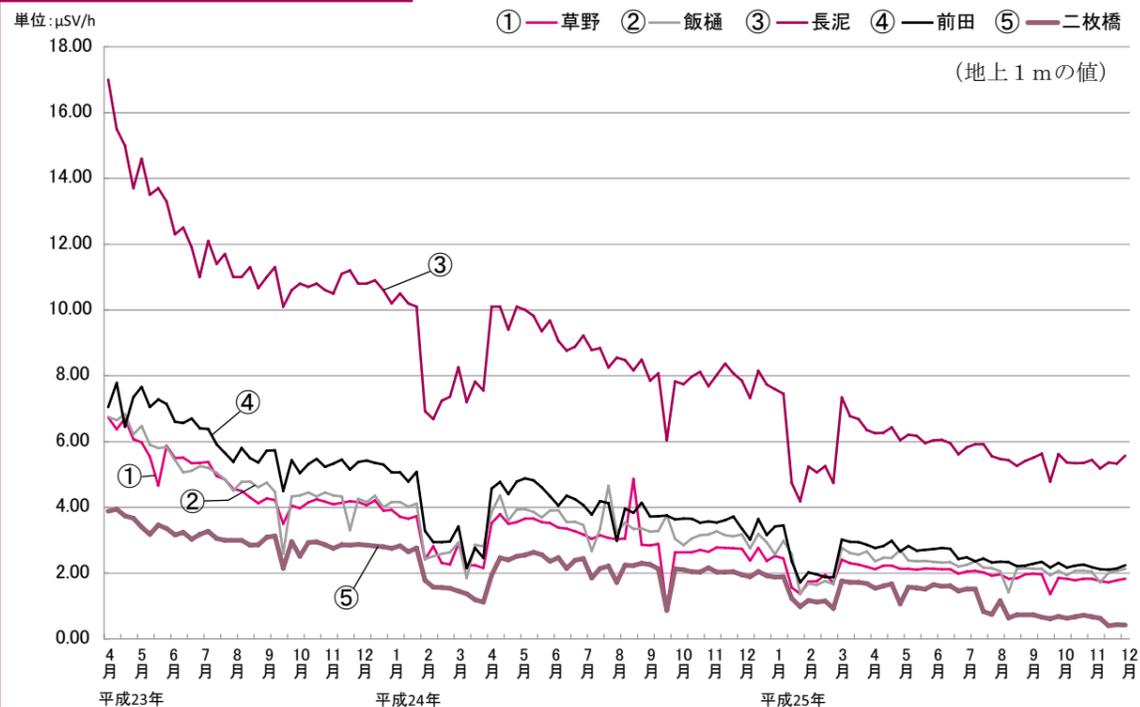
▲ガンマカメラによる測定の様子

二枚橋地区で行われた測定では、住宅周辺は除染前毎時2.7マイクロシーベルトほどありましたが、除染後は毎時0.6マイクロシーベルトほどです。測定後、村の担当者が除染前後の効果などを確認し、世帯ごとに報告するほか、国に追加除染を要望するための資料として活用が期待されます。

村の担当者は「結果をまとめ、効果的な除染が行われているかチェックしたい。測定結果が目に見えることで、放射能への理解が深まり、リスクコミュニケーションにもつながるのではないかと。今後、除染効果が低い場所、追加除染について国に要望していきたい」と話しています。

【農地】の放射線量の推移 (平成23年4月～平成25年12月)

お知らせ版に掲載している村のモニタリング結果の推移を紹介します。(再編後の区域毎に抜粋)



【宅地】の放射線量の推移 (平成23年4月～平成25年12月)

お知らせ版に掲載している村のモニタリング結果の推移を紹介します。(再編後の区域毎に抜粋)

